



岡山大学自然生命科学研究支援センター
動物資源部門鹿田施設
Newsletter

2017
Dec. 25

岡山市北区鹿田町 2-5-1 TEL 086-235-7445 FAX 086-235-7433 e-mail: animal@md.okayama-u.ac.jp
ホームページ <http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~animal/>

手術支援システム ダビンチ IS-2000HD を 中型動物実験区域に設置



手術支援システム ダビンチ IS-2000HD が本施設ウェットラボ棟 2 階の移植細胞等準備室に設置されました。この事業は大学資産の有効活用を目指し、岡山大学病院におけるシステム更新に伴う用途廃止された旧システムを動物実験用として本施設に移設したものです。現在、正式な供用開始に向けて準備中ですが、移設時に通常のメーカーメンテナンスを実施済、暫定的に使用することができます。麻酔器や生体モニター、手術台等の準備の都合もありますので、ご利用の際には、事前に中型動物担当の矢田にご相談ください。

暫定期間中の本装置の使用できる者として、「本装置を使用したことがある経験者」及び「経験者の直接指導が受けられる医療関係者（医学部の学生を含む）」とさせていただきます。また、本システムは古い機器であり、故障した場合の修理の対応や保守に関してやや難があります。この点はご了承ください。

なお、利用料金は、実験動物購入代金＋飼育料金＋実験室の使用料金＋暫定の基本料金（10,000 円／日）＋鉗子等の消耗品（時価）の合計となります。

中型動物の飼育環境の充実化を図りました。

動物資源部門は、平成 29 年 4 月 1 日付で津島南施設（旧薬学部農学部動物実験施設）を鹿田施設及び津島北施設の管理・運用体制内に組み込み、部門所属の動物実験施設の管理・運用の一元化を果たしました。このような全学レベルで学部・研究科等の枠組みを超えた一元的な管理・運用体制を敷くのは、国内の総合大学において初めてです^{*1}。

これに伴い津島南施設の家畜飼育室を活用し、家畜を用いた動物実験の研究支援体制のさらなる充実化を図りました。具体的には、長期の観察が必要な家畜を用いた動物実験では、実験動物を鹿田施設に留めておくのではなく、津島南施設の開放的な飼育空間も活用、実験動物福祉にいつそう配慮した実験動物の飼養及び保管の環境を提供いたします。観察途中での飼育はもちろんのこと、投薬や採血等の術後管理も鹿田施設が提供する中型動物支援サービス内で対応できますので、このサービスを活用する場合、鹿田キャンパス勤務の動物実験実施者が津島キャンパスに出向く必要はありません。

^{*1} 医療系以外の農学部・理学部・教育学部・工学部を含めた横断的な一元的な管理・運用体制において



上：津島南施設（奥）と放牧されているヤギ
下：手術回復後、津島南施設に移送したヤギ

施設を利用した臨床セミナーの紹介

11 月 25 日に麻醉蘇生学教室主催のセミナー「術中 RM と PEEP」が、本施設の多目的研修室及びメインウェットラボ室で開催されました。午前の講義と並行して実験動物の準備が実施されましたが、それに要した麻醉蘇生学教室の人員はわずか 2 名の医師です。これは、本施設の中型動物支援サービスを活用することで実現しています。

午後からは、2 週間前に測定用プローブを埋設したヤギを使い、その気道内圧を変化させながら各種パラメーターを計測・その結果の図説を元に講義が進められました。このようなりカレント教育の実施場所としても本施設を利用することができます。



ヤギを使って講義する森松博史教授

本部門は、組織の中核施設の出自が医学部附属動物実験施設ですが、現在、医学部から独立した部局である自然生命科学研究支援センターを構成、他の研究機関の研究者も本部門に直接アクセス、所用の条件を満たすことで動物実験の実施が可能です。是非、教育や研究に本施設をご活用ください。